

【案件】

2015 年 7 月 京都市土砂災害

【概要】

先日の台風 11 号により、京都市で発生した土砂災害に対し、今年 3 月に京都市と締結した「災害時における調査の相互協力に関する協定」を発動し、調査団を派遣した。

【構成】

団 長	京都大学大学院工学研究科都市社会工学専攻 教授	三村 衛
団 員	京都大学理学部地球物理学教室 教授	竹村 恵二
	一般財団法人 地域地盤環境研究所	北田奈緒子
	同	井上 直人

【調査日時】

7 月 22 日（水） 午後 15 時～

（次の台風 12 号が接近する可能性があったので、それまでに現状を確認するため）

平成 27 年 7 月 22 日現地調査速報

調査地域周辺は図 1 の地質図に示されるように、比叡花崗岩 (Gs) で構成されている。局所的に安山岩 (D1) や酸性岩 (D2) の岩脈が認められている。防災科学技術研究所が公開している地すべり地形判読結果(図 2)では、調査地の南側に大規模な地すべり地形が認められている。都市圏活断層図(図 3)では、調査地付近は地すべり地形として表現されている。国土地理院が公表している 10m 地形標高データより求めた地形傾斜では、周辺と比較して特に急傾斜を示していない。

図 5 に現地踏査により大量の土砂が認められた部分を示した。図 6 には写真撮影位置、以降に、現地の写真を示す。大量に堆積した土砂の大半は真砂化した花崗岩であり、堆積時の流離構造が確認できた(写真 1 および 2)。調査時でも、真砂土がどんどん流出しており、本来の道路のアスファルト面が埋もれている状態であった(写真 3)。沢を登ると、崩壊した斜面が何カ所も確認できた(写真 5・6)。雨が強くなったため、P7 の地点まで土砂の崩壊を確認して引き返した。なお、写真 8 の北東側の沢では今回の崩壊は認められなかった。なお、P3 と P4 の間にある南北走向の沢は、民家の裏側であり、アクセスできなかったため土砂崩壊の有無は確認できていない。ただし、倒木は確認したが、今回によるものかどうか判別できない。

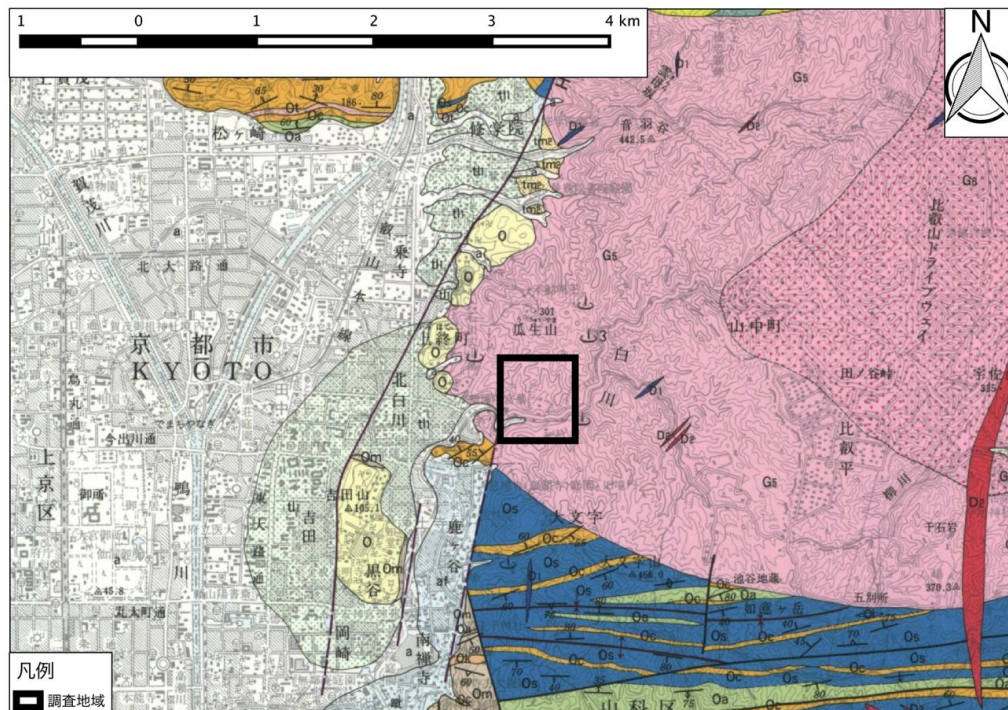


図 1 周辺の地質図 (5 万分の 1 地質図「京都北東部」)

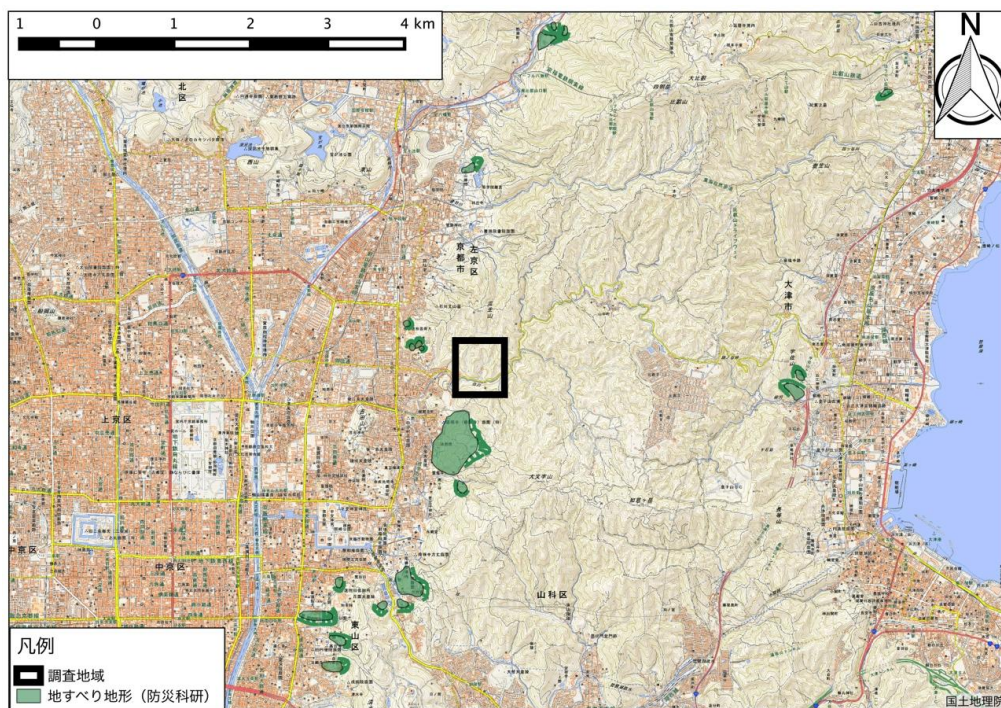


図 2 防災科研による地すべり地形

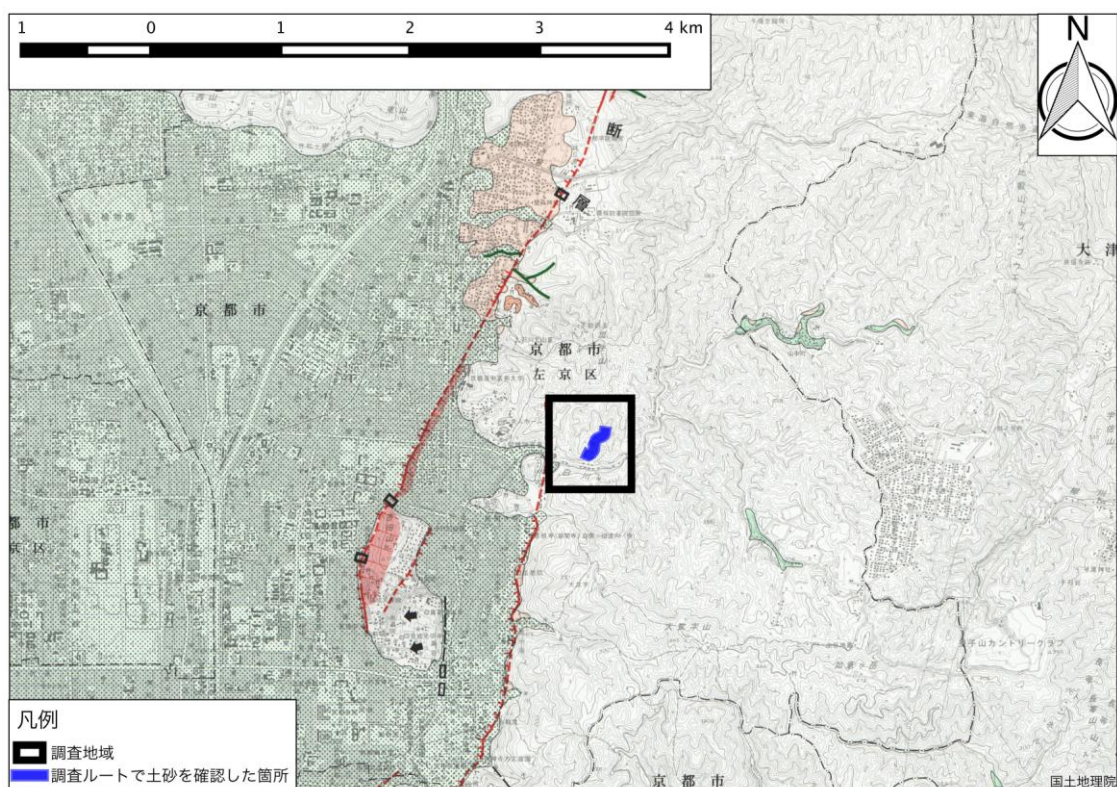


図 3 都市圏活断層図

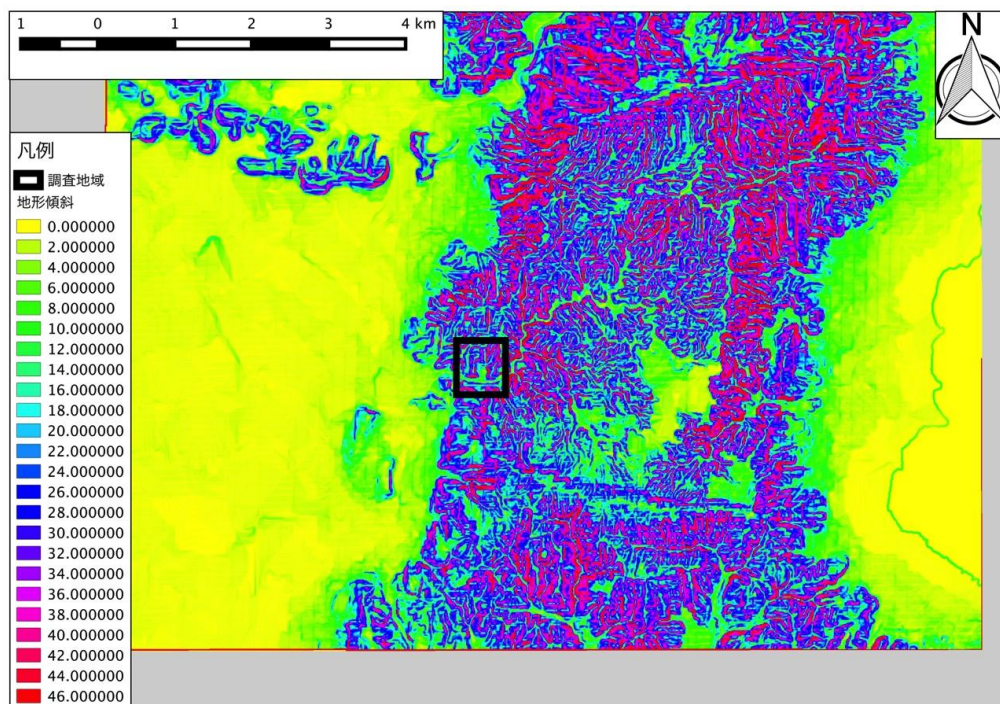


図 4 国土地理院 10m メッシュによる地形傾斜（数字は傾斜角（度））

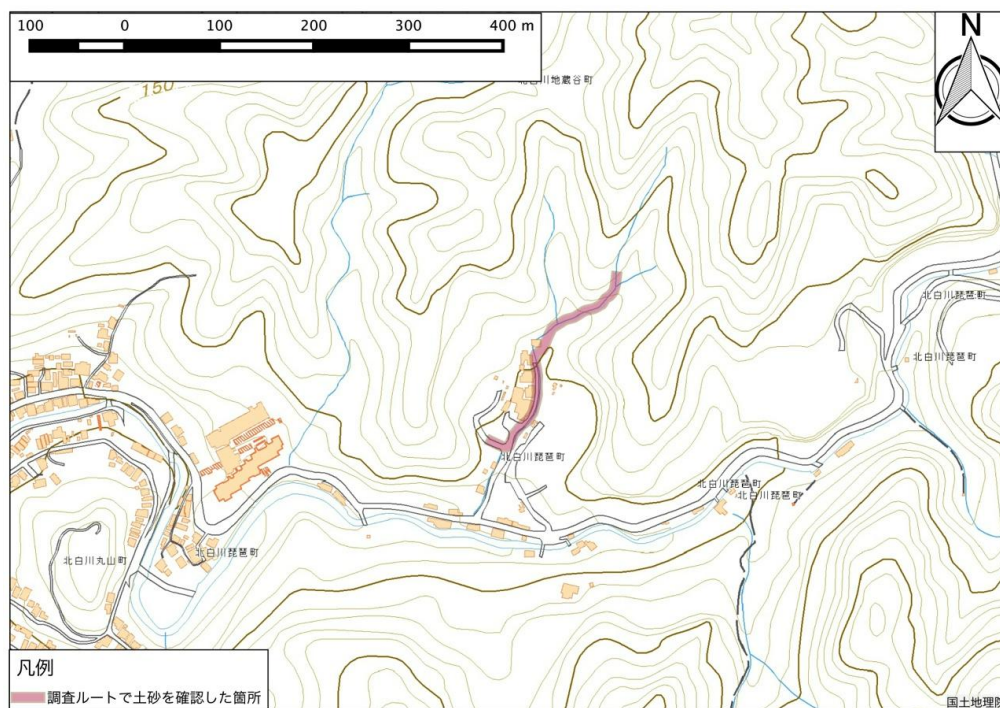


図 5 現地調査結果

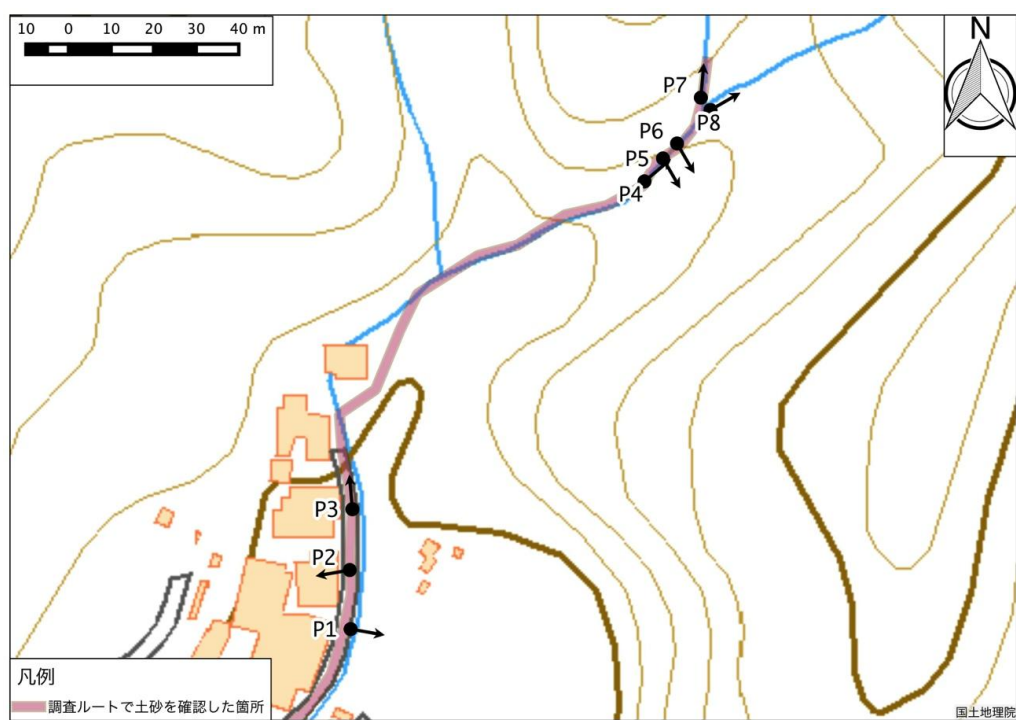


図 6 写真撮影位置 (●) と撮影方向 (→)



写真 1 (P1)



写真 2 (P2)



写真 2-2 (P2) 堆積土砂の拡大



写真 3 (P3)



写真 4 (P4)



写真 5 (P5)



写真 6 (P6)



写真 7 (P7)



写真 8 (P8)